

研 修 等 報 告 書

令和 3年 5月 18日

笠岡市議会議長 殿

(報告者) 議員 真鍋 陽子



下記のとおり研修等に参加したのでその結果を報告します。

記

住 所	笠岡市美の浜8-4 (自宅) オンライン参加
電 話	0865-67-0738
案 件	アジア太平洋ディスレクシアフォーラム2020in岡山
期 日	令和3年5月8日(土) 10時~17時半 9日(月) 9時から18時まで
主 催 者	APDF2020実行委員会
概 要	<p>ディスレクシアとは識字障害の一部の症状であり、生理学的な障害。文字を音に変えたり音を文字にする機能が妨げられている。日本人全体の5~8%の割合で存在する。</p> <p>ディスレクシア症状を持つ方は、読む、書くなどが強いられる学童期に入ると、生きづらさが顕在化する。障害がない子どもに比べると読む機会が奪われることで、言葉を増やす機会が減り、言葉の背景にある豊かな知識を蓄えることにも影響が出てくる。本人と周囲が正しい理解と支援を得ることなく学齢期を過ごすことで、本来なら発揮できる子どもの素質を潰すばかりか、本人に学習性無力感を抱かせる、援助要求スキルを身に着ける機会を奪われる、二次障害から最悪の場合、刑事事件を起こす、という状況にまで至っている。ある少年院における識字障害、ADHDスクリーニングテスト結果(平成12年~16年累計)(結果はいずれも「疑いあり」)5年間の入所者549人の内、6割にディスレクシアがあったという統計も出ている。これは、ディスレクシアや識字障害があるから刑事事件を起こすということではなく、【学齢期に正しい支援が行わなかったことによる二次障害により事件を起こした】という、いわば【教育の敗北】の現状を表している数字だ。こんな悲しい数字をできるだけ少なくすることは政治の仕事だ。笠岡市の義務教育において識字障害に対する正しい理解と支援を確実に徹底していくために今後もしっかりと教育委員会にはたらきかけていく。</p>
添付書類	チラシ メモ 会場に行かれた方から頂いた資料